

「正眞の敵討やつたら何うなるね」

「助太刀をすると言ふてた、助太刀したら松さんの首が飛んで仕舞で」

「甚い事になつたんやな」

「お前が刀を抜いたりするよつてにや」

「オイ松さんが来たで」

「ほんに、オイ松さん、長い物を差してウロ／＼しいな」

「別にウロしいたい事はないが、定はんは」

「まだ來んね」

「私、モウ否になつて來た、あんまり嬉しいのんで朝飯も食はずに來たので、腹は減るし終に此んな長い物を差した事がないので肩はこるし、腰は曲るし、笠を脱ぐ事は出來ず、着物の紋が大きいので、人がジロ／＼見るし、モウ否になつてるね、松さんわいな」

「まだやが、今な此處へ正眞の侍が來て、喜いやんが刀を抜くもんやで、正眞の敵討と間違へて助太刀をると言ふので往生をしたんや、併し定はんかても今頃まで來んと言ふ事はない、櫻の宮へ行てるのんやで、斬合が始まつたら、櫻の間から不意に出て來るねで、ブラ／＼行こか」

「行こいな」

三人連れで櫻の宮へ參りますと、モウ彼方では三味線が鳴つてる、此方では酒を飲んでるむかうでは踊つてるのでたまりかねて、

「オイ、松さん來てるやろうか」

「來てるわいな」

「ボテ／＼始めよやないか」

「始めよか、葎の火を借りに來て」

「行くで」

「おしお」

相談をして依る。

「行くで、コリヤ／＼順禮、率爾乍ら葎の火を一つお貸下され」

「松さん仲々上手になつたな、サア／＼打立の清い火ぢや、チャツとおつけなされませ」

「オイ定はん來てるやらうか」

「來てるわいな」

「遣ろうか」

「遣るで」